

環境NGO
eZOROCK

<http://www.ezorock.org>

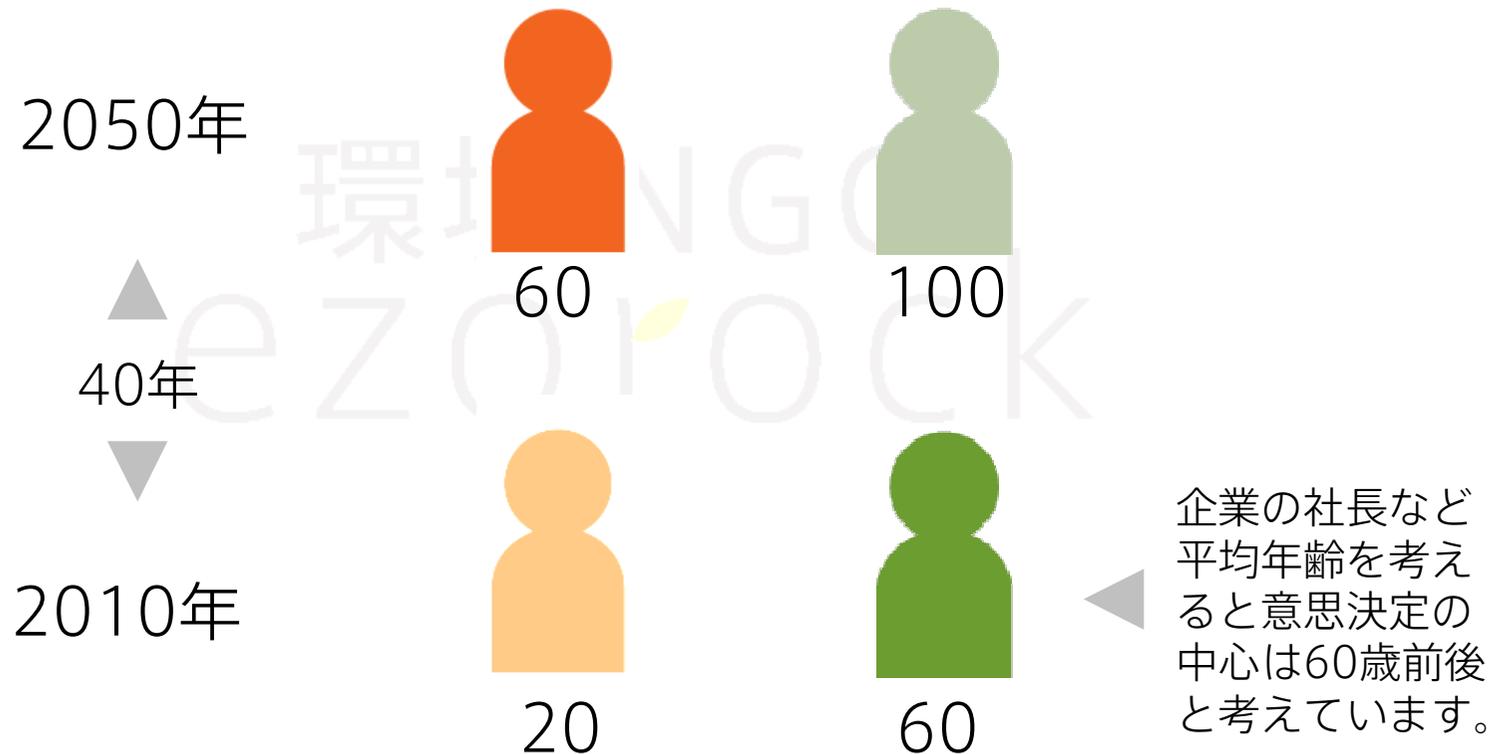
■ 団体概要

- 【団体名称】 環境N G O ezorock(任意団体)
- 【設 立】 2001年4月
- 【役 員】 代表理事 草野竹史 ほか2名
- 【専従職員】 常勤 4名
- 【スタッフ】 ボランティアスタッフ：約40名
- 【会員数】 210名（2010年5月現在）
- 【会員制度】 学生会員3000円 一般会員5000円 ほか
- 【事務所】 札幌市中央区南8条西2丁目5
市民活動スペース アウクル305号
- 【U R L】 <http://www.ezorock.org/>



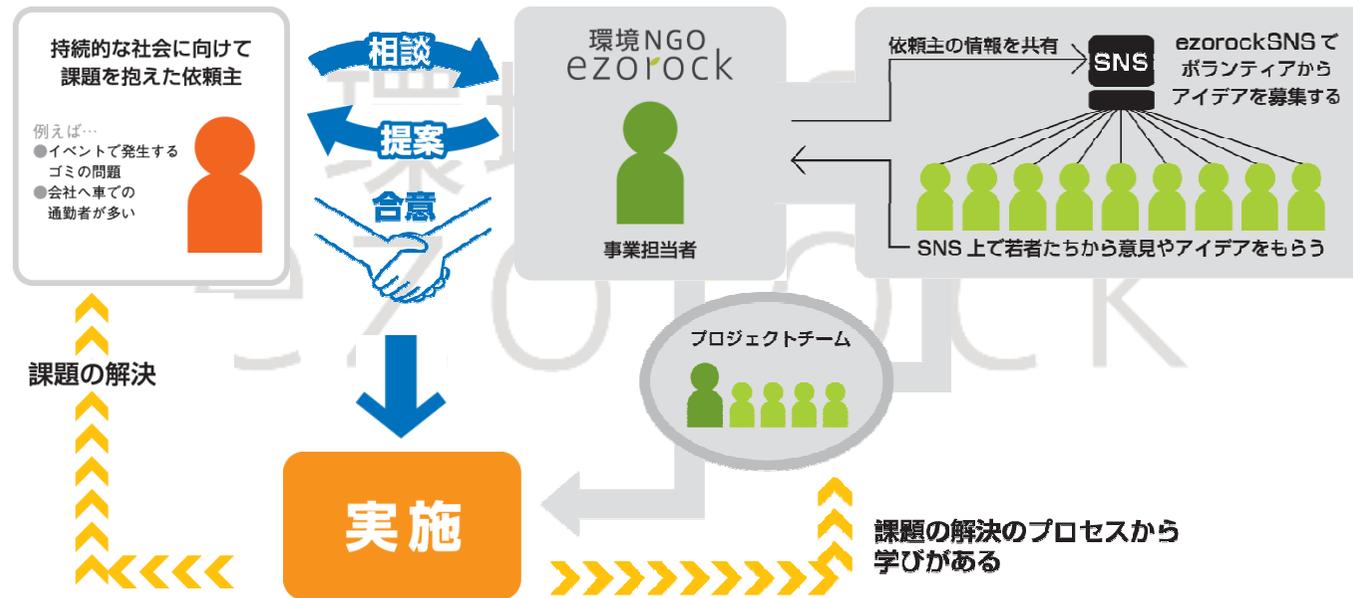
■ 私たちの問題意識

私たちは、環境問題を世代を超えて影響が現れる問題と捉えています。そのため、現在決められた様々な決定の影響を受ける、次世代(若者以降の世代)の声を社会に届ける必要があると考えています。



■ その問題に対する二つのアプローチ

1. 若者が環境問題の解決につながる地域課題に取り組みます。
2. その課題解決のプロセスを通して、若者が育つ仕組みをつくります。



若者が行動することで、自らの意思を社会に伝えます。

■事例：RISING SUN ROCK FESTIVAL 環境対策活動

フェスティバルで発生する環境負荷を下げるために約6万人の来場者に対して主にごみ分別の普及啓発を行う活動。160人のボランティアスタッフと29名のコーディネーターによって活動を展開しています。



■ 3 R 行動につながる場のデザイン(しくみづくり)

認知から行動までのプロセスを作り上げることが重要。私たちは、来場者に対して、共感してもらうために、ひたすら伝えることに専念しています。



1) 入場ゲートでオリジナルごみ袋の配布

2) 大型ビジョンによる情報提供

3) 導線上に設置された5.4mの巨大ごみ箱

4) ボランティアによる分別の呼びかけ

5) 来場者自らが分別を実施する

■さらに「共感」を生み出すためのアプローチ

ごみの分別の成果を伝えるために、地元石狩の農家(はるきちオーガニックファーム)の協力によりフェスティバルから発生する生ごみを堆肥化。作物を栽培し再び食材として提供。すいか割りやじゃがいもの無料配布を実施



■環境対策活動の成果は？

○会場内のポイ捨てが大幅に減少

○ペットボトルのキャップとラベルがはずされて捨てられるようになった

○音楽フェスティバル最高の13分別を実施(2004～)

○会場から排出される廃棄物の約70%をリサイクル(2006～)

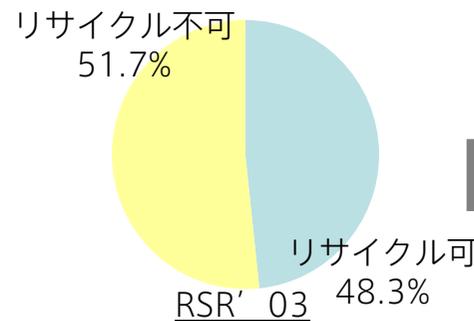
○生ごみから堆肥化。再び食材として戻すプロジェクトスタート(2008～)



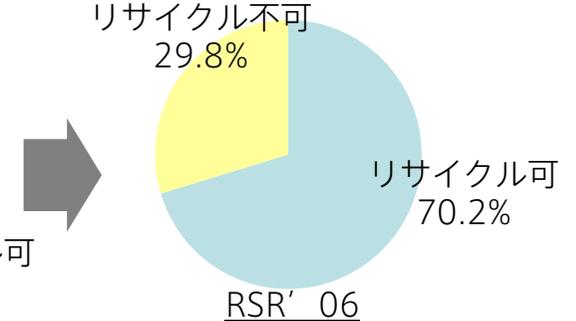
RSR' 01



RSR' 05



RSR' 03



RSR' 06

■波及効果として起きていること

【イベント業界への広がり】

- ほかのイベントなどにおいても、環境対策活動を行うことが増えた
- ごみ箱に人が立ち誘導を行う取り組みが一般的になった

【人材育成としての成果】

- 来場者の日常生活における分別意識の向上
- 生ごみ堆肥化など、若者向け体験プログラムの機会を創出
- 大学と連携した環境教育プログラムやボランティア体験の場として
- 環境ボランティアコーディネーター養成の実践の場として

【地域への広がり】

- 生ごみを通して、イベントと近隣の農家とのつながりの創出

【環境業界への広がり】

- 普及啓発の考えから、戦略的に伝えることの認識へ

■さらに、日常への応用として・・・

- 私たちが行っているアプローチは、ごみ箱に来る前に、どのタイミングで、どのような人に、どんな情報を提供しるのが大きなポイント
- 日常生活に置き換えると、ごみステーションに来る前にどのようなタイミングで情報提供するのが重要
- 札幌市の場合、20代の単身者に対して、ごみの分別に関する情報が最も行き届いていない
- さらに、4月～6月の頃は、他の地域から引越ししてきた方が分別に困っている

オリジナルごみ袋を分別学習を行うための教材として活用(案)

「分別がわからない」という方に意識を高めてもらうため、分別のやり方などをごみ袋に記載し、10枚単位で提供。毎週ごみを捨てるたびに、家庭の中で自然と学習効果が期待できる。

■最後に・・・

ぜひ、環境問題の影響をダイレクトに受ける「若者＝次世代」の声に、耳を傾けていただきたいと思います。



ご清聴ありがとうございました。

環境N G O ezorock
代表理事 草野 竹史
(info@ezorock.org)